

(2) 市民に開かれた美術館のあり方について

新美術館準備室

1 新美術館について

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館（以下「新美術館」という。）の第二庁舎への新設に向け、6月20日から改修工事が始まりました。工事期間は令和6年2月29日までです。

工事個所は、第二庁舎1階の西側で、現在のもみじサロンの一部が企画展示室、半屋外のもみじテラスが常設展示室として生まれ変わります。

(1) 常設展示室（桑原巨守彫刻ギャラリー）

半屋外の常設展示室では、桑原巨守の彫刻作品を展示します。半屋外という特徴を活かし、解放感あふれる空間で、光と風を感じながら作品を味わうことができます。また、市民らが気軽に立ち寄れる憩いの場とするため、常設展示室の観覧料は無料としました。

(2) 企画展示室（Aギャラリー、Bギャラリー）

元もみじサロンの一画に企画展示室を新設します。新美術館開館後は、いくつかの開館記念展を行います。幅広い市民らの参加による渋川をテーマにした企画展や、施設の名称にもなっている彫刻家 桑原巨守と渋川市との親和性を味わうことができる企画など、渋川市の良さを感じることができる事業を検討しています。

主催事業だけでなく、市民ギャラリーとして貸し出すこともでき、可動壁で仕切ることによって2部屋に分けることも可能です。

(3) 輪のホール

企画展示室前のホールでは、窓の外にひろがる常設展示室の彫刻作品を眺めながら、市民らが自由に交流することができます。

来館者の目を引く大きな輪の意匠がこのホールの名称の由来となっており、芸術文化活動を通して人と人とのつながりが輪のようにひろがっていくことを象徴しています。

2 運営方針（案）について（別添参照）

美術館が新しく生まれ変わることを契機に、より市民に開かれた美術館を目指すため、新たな運営方針を策定することになりました。

- (1) 策定の背景
- (2) これまでの美術館の取組
- (3) 新美術館の使命と役割
- (4) 新美術館の運営方針

3 その他

新美術館建設に係る総合監修として、池田政治氏（東京藝術大学名誉教授）にご意見をいただいています。

美術館平面図

